

2022年3月期 第3四半期 決算説明会

2022年2月4日

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション



2022年3月期 第3四半期決算状況

1. 概要	4
2. 売上高・利益	5
3. セグメント別業績	7
・自動車電池（国内）	8
・自動車電池（海外）	9
・産業電池電源	10
・車載用リチウムイオン電池	11
・特殊電池およびその他	12
4. 貸借対照表	13
5. 連結業績予想の修正	14
6. 天津工場の減損について	17

2022年3月期 第3四半期決算状況

- 世界経済は、各国の経済対策により経済活動の再開が進みましたが、足元では、変異株の発生に伴う新型コロナウイルス感染症が再拡大傾向にあります。加えて、原材料価格上昇、部材不足やコンテナ不足によるサプライチェーンの混乱などもあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。
- 売上高は、主として車載用リチウムイオン電池の販売の増加、海外の自動車電池事業における鉛蓄電池の販売が増加したことに加え、為替の円安影響もあり増加しました。
- 営業利益および経常利益は、主として原材料価格上昇の影響により減少しました。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、上記に加え中国の連結子会社における減損損失を計上したことにより減少しました。

2. 売上高・利益



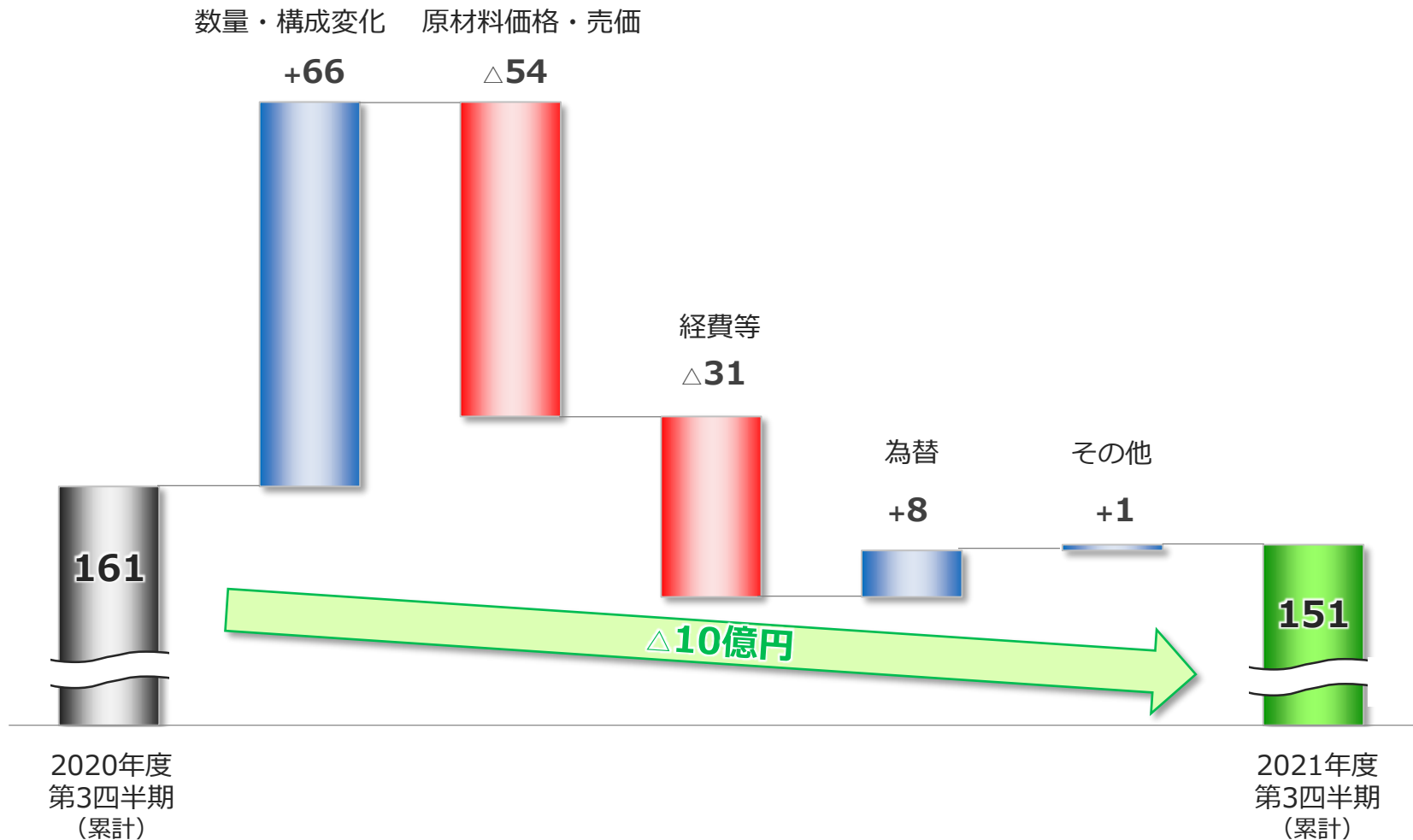
(億円)

	2020 年度 第3四半期 (累計)	2021 年度 第3四半期 (累計)	増減	(前期比)
売上高	2,780	3,131	+351	(+12.6%)
営業利益 (営業利益率)	144 5.2%	139 4.4%	△5 △0.8P	(△3.3%)
のれん等償却前営業利益 (のれん等償却前営業利益率)	161 5.8%	151 4.8%	△10 △1.0P	
経常利益	166	161	△5	(△3.3%)
特別利益	5	23	+18	
特別損失	36	74	+38	
税前四半期純利益	135	110	△25	
法人税等	63	49	△14	
非支配株主に帰属する四半期純利益	16	27	+11	
親会社株主に帰属する四半期純利益 (四半期純利益率)	57 2.0%	33 1.1%	△24 △0.9P	(△40.9%)
のれん等償却前 親会社株主に帰属する四半期純利益 (のれん等償却前四半期純利益率)	73 2.6%	43 1.4%	△30 △1.2P	
国内鉛建値 (万円/t)	25.61	31.20	+5.59	
L M E (US\$/t)	1,816	2,266	+450	
為替 (円/US\$)	105.54	111.45	+5.91	

2. 売上高・利益

営業利益増減要因（前年比較）

（億円）



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益です。

3. セグメント別業績

(億円)

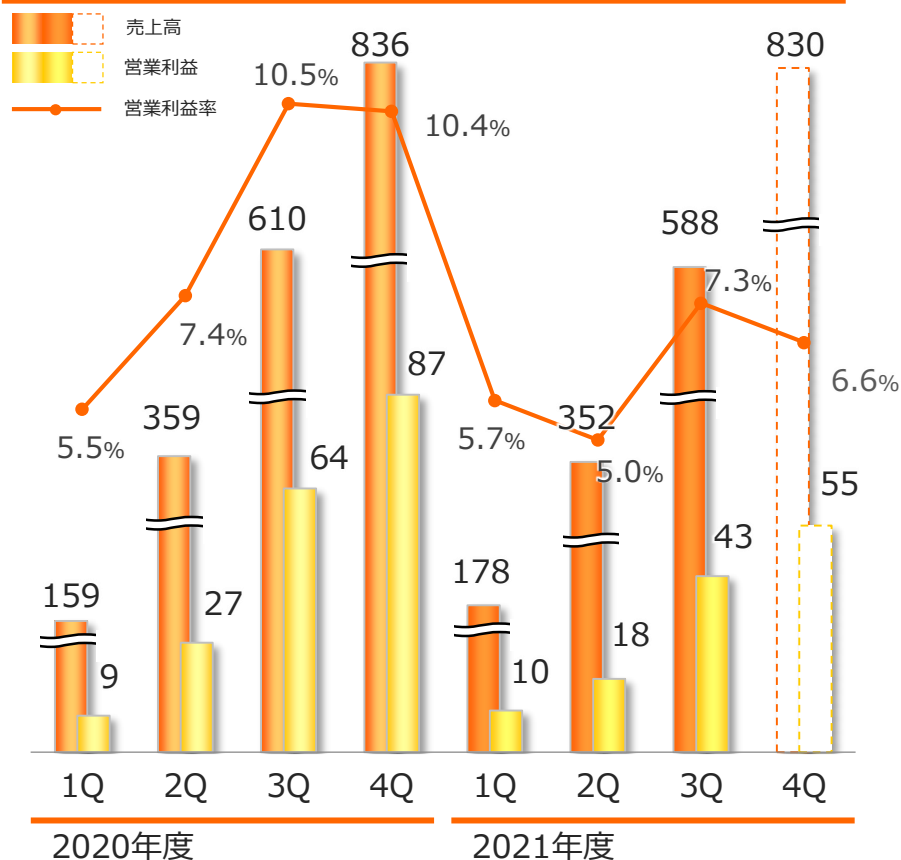
		2020 年度 第3四半期 (累計)		2021 年度 第3四半期 (累計)		増減	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)
自動車電池	国内	610	64 (10.5)	588	43 (7.3)	△22	△21 (△3.2)
	海外	1,213	87 (7.2)	1,380	71 (5.2)	+167	△16 (△2.0)
産業電池電源		582	21 (3.7)	710	20 (2.9)	+128	△1 (△0.8)
車載用リチウムイオン電池		244	△14 (△5.8)	332	13 (3.9)	+88	+27 (+9.7)
特殊電池およびその他		131	3 (2.1)	121	3 (2.7)	△10	+0 (+0.6)
合計		2,780	161 (5.8)	3,131	151 (4.8)	+351	△10 (△1.0)

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

3. セグメント別業績（自動車電池（国内））

自動車電池（国内）

売上高・営業利益・利益率



減収減益

(億円)

2021年度 第3四半期商況

- ▶ 新車向け販売数量は、2Qから顕在化した半導体不足などによる新車メーカー減産が3Qも継続し減少
- ▶ 補修向け販売数量は、新車供給不足による保有車両の継続使用の増加、中古車市場活況などの影響により、好調であった前期並みに推移

増減益要因

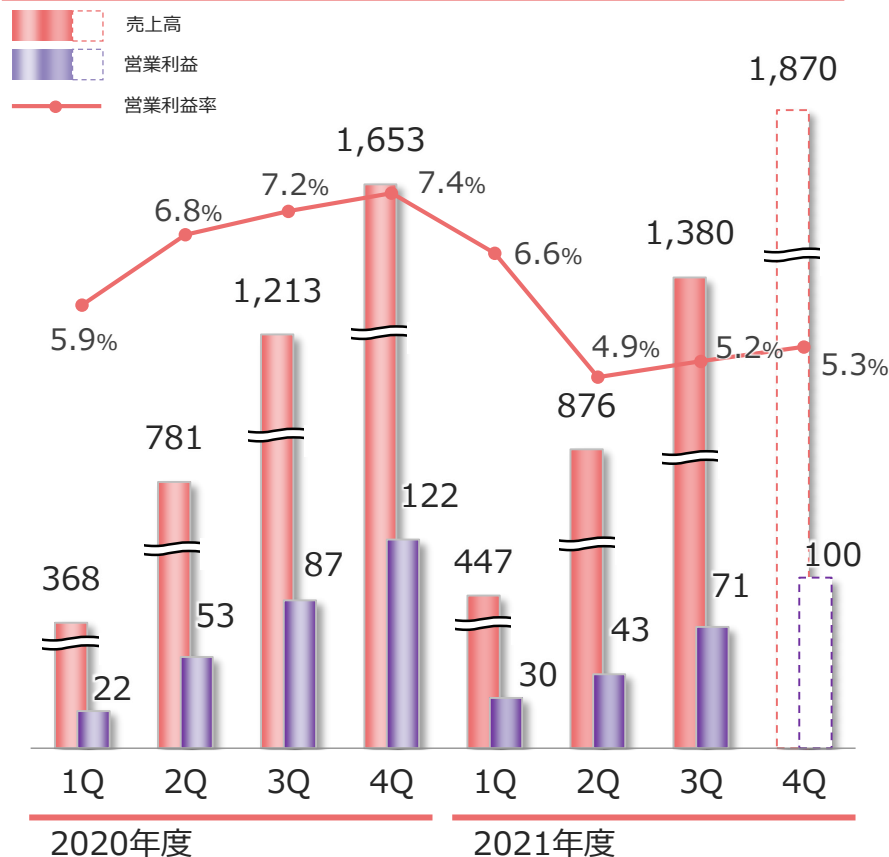
数量・構成変化	+3
鉛価格・売価	△19
合理化・経費等	△5

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

3. セグメント別業績（自動車電池（海外））

自動車電池（海外）

売上高・営業利益・利益率



増収減益

(億円)

2021年度 第3四半期商況

- ▶ インドネシア、タイの自動車・オートバイ用販売数量が増加、ベトナムでは新型コロナ影響から3Qは回復基調に転じたが、2Qの影響により減少
- ▶ 欧州での補修向け販売数量、産業用販売数量が増加
- ▶ 中国では新車向け、補修向け共に競争環境激化により減少
- ▶ 円安の影響、鉛価格上昇に伴う販売価格上昇の影響により増加

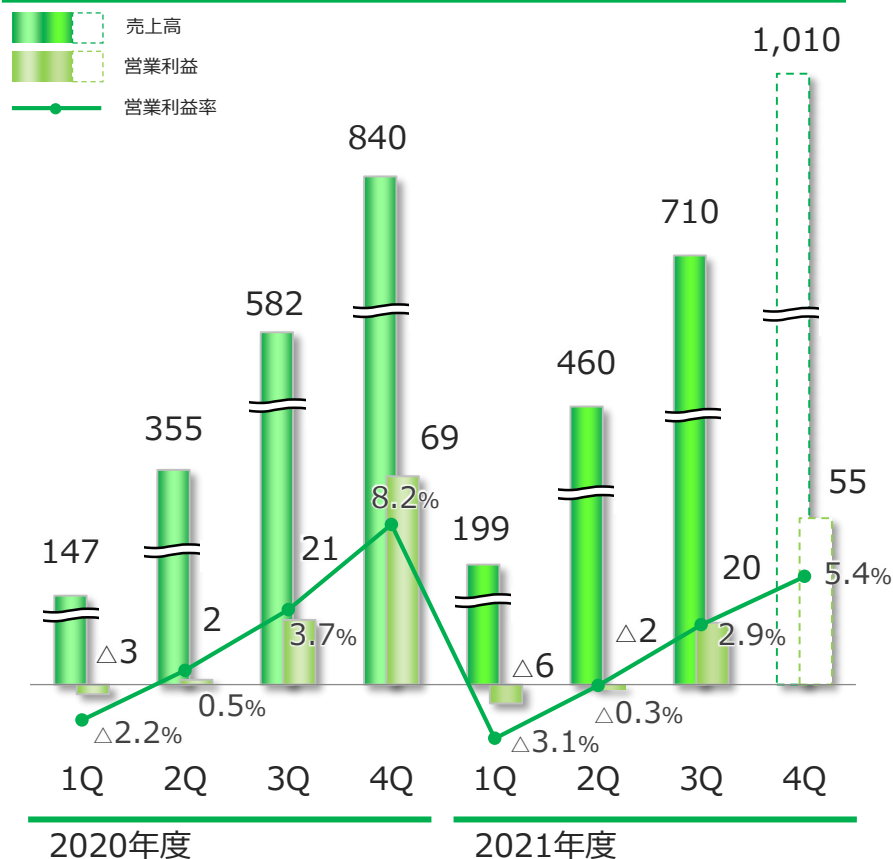
増減益要因

数量・構成変化	+19
鉛価格・売価	△20
合理化・経費等	△23
為替	+8

3. セグメント別業績 (産業電池電源)

産業電池電源

売上高・営業利益・利益率



増収減益

(億円)

2021年度 第3四半期商況

- ▶ 大型風力発電用リチウムイオン電池は予定通り3Qに納入完遂
- ▶ バックアップ用電池電源装置は新型コロナ影響による大幅減少から回復
- ▶ フォークリフト用は新型コロナ影響から回復したことにより販売数量が増加
- ▶ サンケン電気の社会システム事業譲受により連結対象に追加

増減益要因

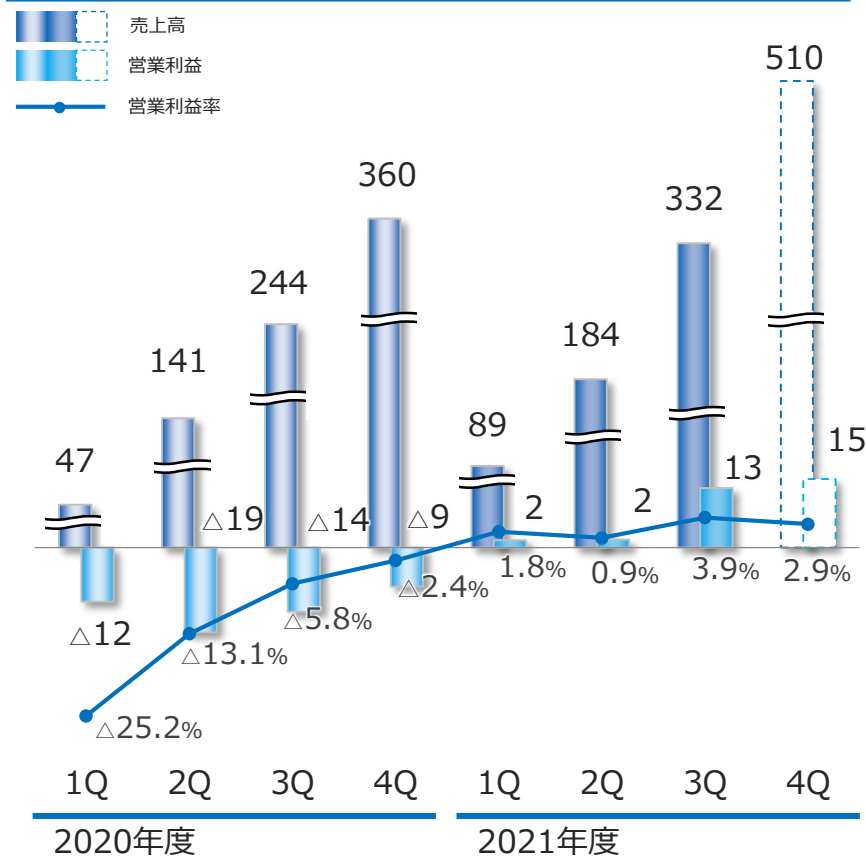
数量・構成変化	+3
鉛価格・売価	△3
合理化・経費等	△1

3. セグメント別業績 (車載用リチウムイオン電池)

車載用リチウムイオン電池

増収増益

売上高・営業利益・利益率



(億円)

2021年度 第3四半期商況

- ▶ [リチウムエナジー ジャパン (LEJ)] プラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池の搭載車種は販売が好調
- ▶ [ブルーエナジー (BEC)] ハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売数量は前期からのトヨタ自動車との取引開始、また採用車種の拡大により増加

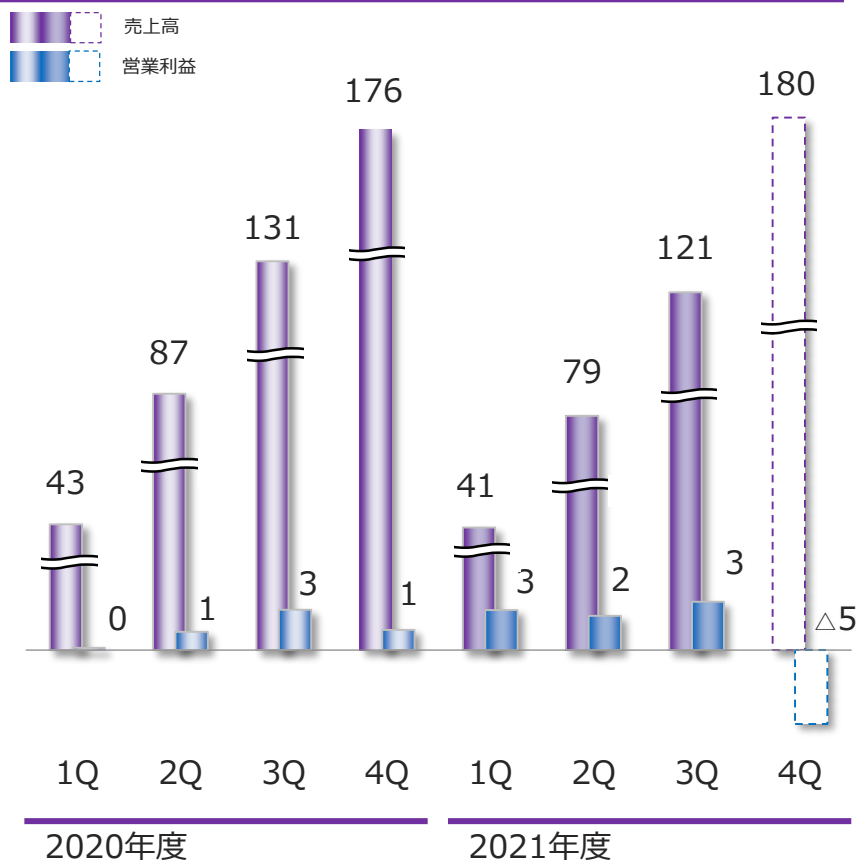
増減益要因

- BECは販売数量増加の影響により増益
- LEJは販売数量の増加ならびに償却費負担の減少などにより増益

3. セグメント別業績 (特殊電池およびその他)

特殊電池およびその他

売上高・営業利益



減収増益

(億円)

2021年度 第3四半期商況

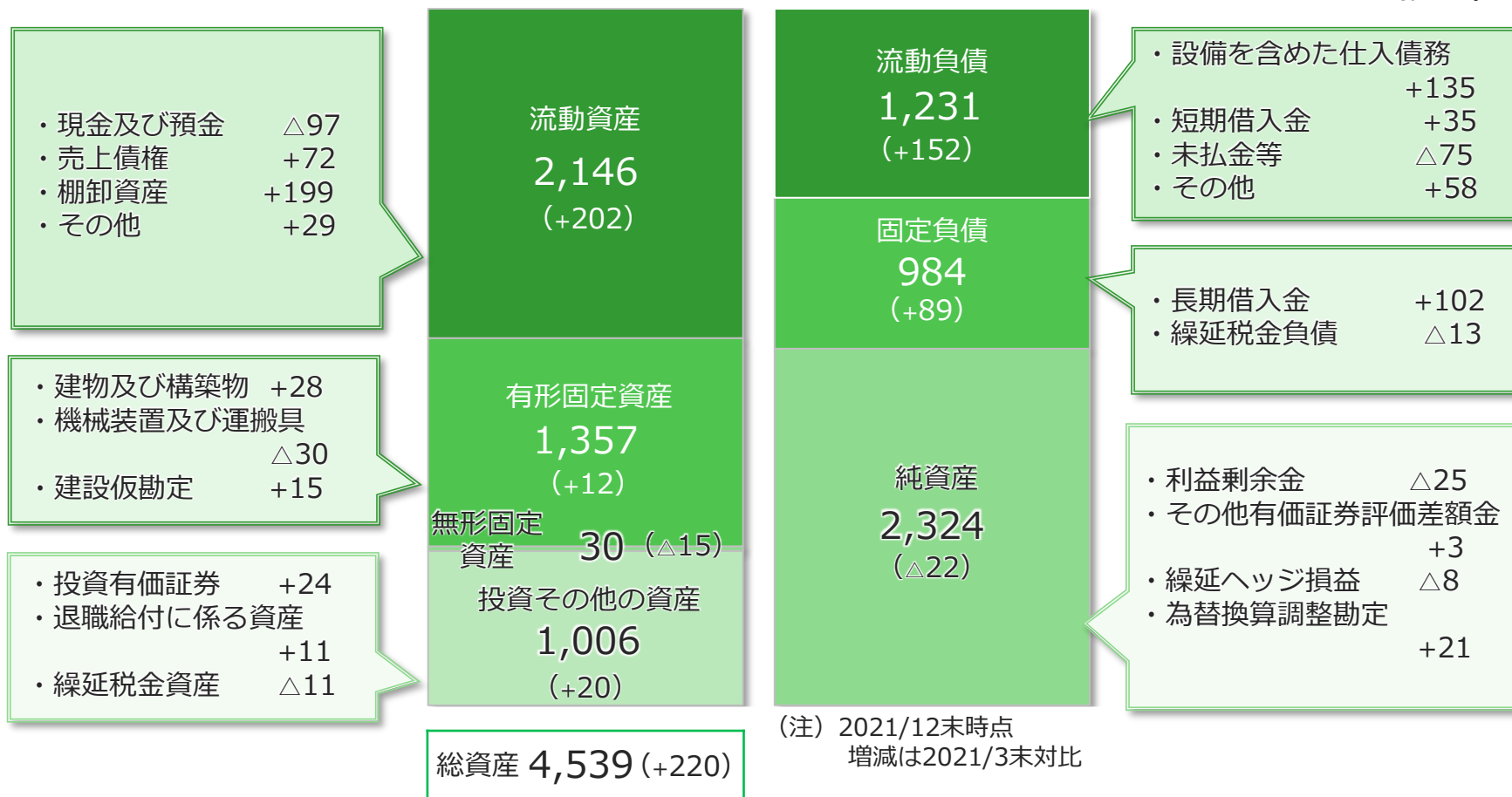
- 潜水艦用リチウムイオン電池の売上高は工事進行基準の関係で減少
- 航空機用リチウムイオン電池の販売はエアライン（補修）向けが堅調に推移

増減益要因

経費の減少により増益

4. 貸借対照表

(億円)



	2021/3末	2021/12末
自己資本比率	46.8%	44.2%
借入金総額	654億円	791億円

5. 連結業績予想の修正

	2020年度 実績	2021年度 11月予想 (A)	2021年度 修正予想 (B)	(億円) 増減 ((B)-(A))
売上高	3,865	4,400	4,400	-
営業利益 (営業利益率)	248 6.4%	210 4.8%	210 4.8%	- -
のれん等償却前営業利益 (のれん等償却前営業利益率)	271 7.0%	220 5.0%	220 5.0%	- -
経常利益	273	240	240	-
親会社株主に帰属する当期純利益 (当期純利益率)	115 3.0%	110 2.5%	80 1.8%	△30 △0.7P
のれん等償却前 親会社株主に帰属する当期純利益 (のれん等償却前当期純利益率)	135 3.5%	120 2.7%	90 2.0%	△30 △0.7P
年間配当金	50円/株	50円/株 (予定)	50円/株 (予定) ※	-
前提条件	国内鉛建値 (万円/t)	26.09	31.0	+2.0
	LME (US\$/t)	1,867	2,200	+100
	為替 (円/US\$)	105.94	110.0	-

修正の理由

- ▶ 親会社株主に帰属する当期純利益は、天津杰士電池有限公司の減損損失などにより30億円の下方修正。
- ※ 減損損失の計上によるキャッシュアウトはないため、年間配当金は50円/株 (予定) で据え置き。

5. 連結業績予想の修正

(億円)

		2020 年度 実績		2021 年度 11月予想 (A)		2021 年度 修正予想 (B)		増減 ((B)-(A))	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)
自動車 電池	国内	836	87 (10.4)	820	50 (6.1)	830	55 (6.6)	+10	+5 (+0.5)
	海外	1,653	122 (7.4)	1,840	90 (4.9)	1,870	100 (5.3)	+30	+10 (+0.4)
産業電池電源		840	69 (8.2)	1,030	65 (6.3)	1,010	55 (5.4)	△20	△10 (△0.9)
車載用リチウム イオン電池		360	△9 (△2.4)	530	20 (3.8)	510	15 (2.9)	△20	△5 (△0.9)
特殊電池 およびその他		176	1 (0.8)	180	△5 (△2.8)	180	△5 (△2.8)	-	- (-)
合計		3,865	271 (7.0)	4,400	220 (5.0)	4,400	220 (5.0)	-	- (-)

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

5. 連結業績予想の修正

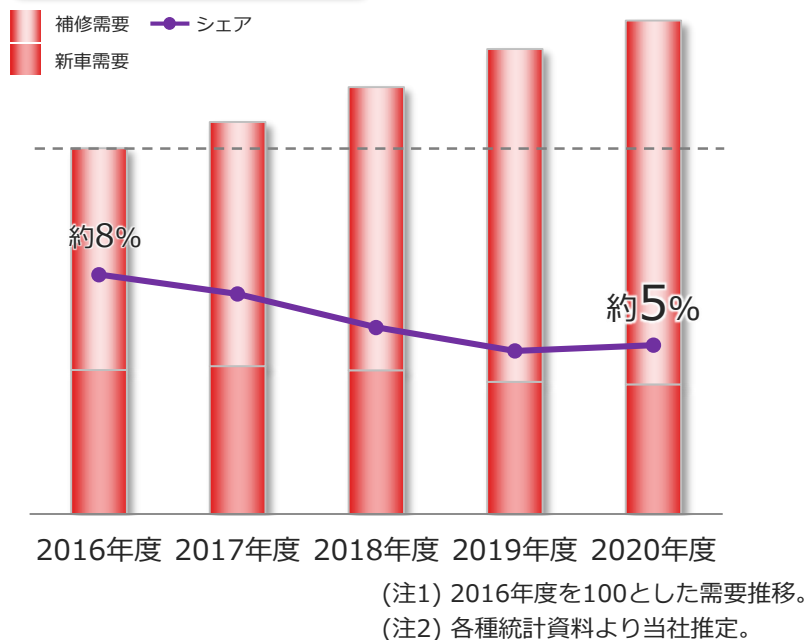
セグメント	変化額		要因
	売上高	のれん等償却 前営業利益	
自動車電池 (国内)	+ 10億円	+ 5億円	➤ 補修向けの販売好調による増加を見込む。
自動車電池 (海外)	+ 30億円	+ 10億円	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 為替の円安影響による増収を見込む。 ➤ アセアン地域における販売好調による増加を見込む。
産業電池 電源	△ 20億円	△ 10億円	➤ 部材不足による販売減少を見込む。
車載用 リチウム イオン電池	△ 20億円	△ 5億円	➤ 半導体不足による新車生産減少の影響を見込む。

6. 天津工場の減損について

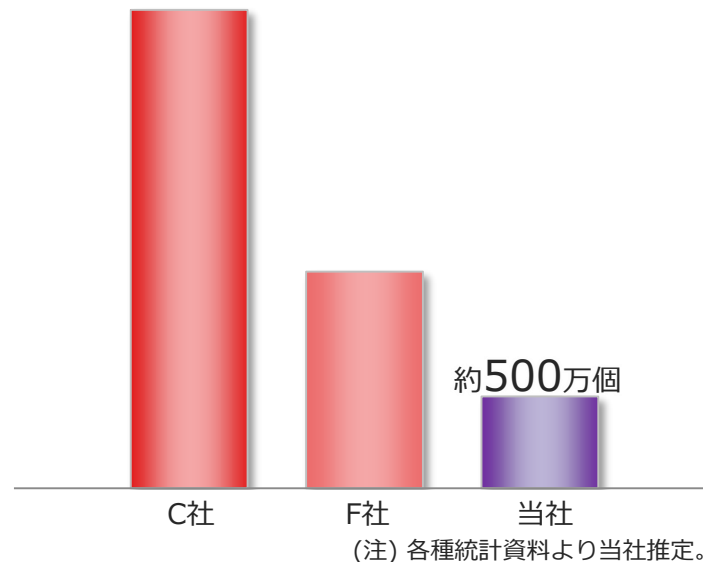
中国における鉛蓄電池需要とシェア、競合比較、概要



自動車用需要／シェア



競合との販売数量比較 (2020年度)



天津杰士電池有限公司の概要

設立	資本金	出資者	新工場への移転	2021年度の生産能力
1991年11月11日	7,160万ドル	株式会社 G Sユアサ 80%	2019年3月：量産開始	400万個／年
		天津百利機械装備集団有限公司 20%		

6. 天津工場の減損について

中国事業を取り巻く環境変化と当社の対応



中国事業を取り巻く環境変化

《外部要因》

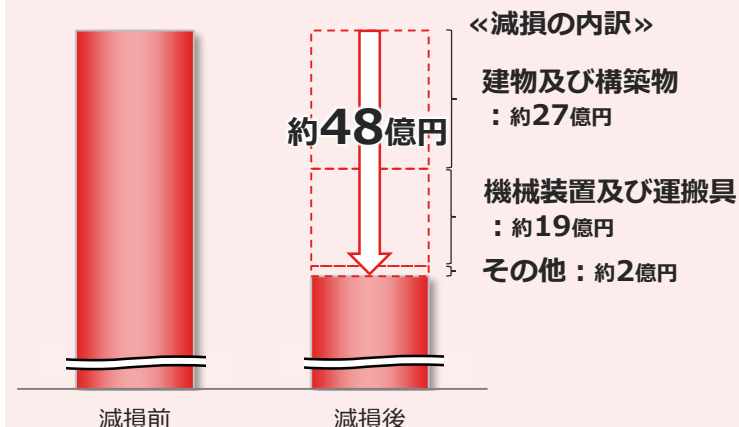
- **新車・補修向け競争の激化**
中国における鉛蓄電池の供給能力過剰による競争の激化
- **中国メーカーの技術向上**
性能・品質面で日本製品の優位性の低下

《内部要因》

- **量産体制構築の遅延**
新工場建設の遅延に加え、新型コロナ影響などによる本格稼働の遅れもあり、歩留まり低下・ラインアップ不足が発生し、シェアが減少
- **コストの高騰**
償却負担の増加や人件費などのコスト高騰による価格競争力の低下
- **販路拡充の遅れ**
代理店販売から直販、ECへの販路拡充の遅れ

当社の対応

- **設備投資の抑制**
- **新工場の減損による資産の圧縮**
事業の収益性低下に伴い、固定資産を回収可能価額まで減額



- **販売体制の見直し**
直販やECなどの販路強化
- **生産性の向上による原価低減**

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。

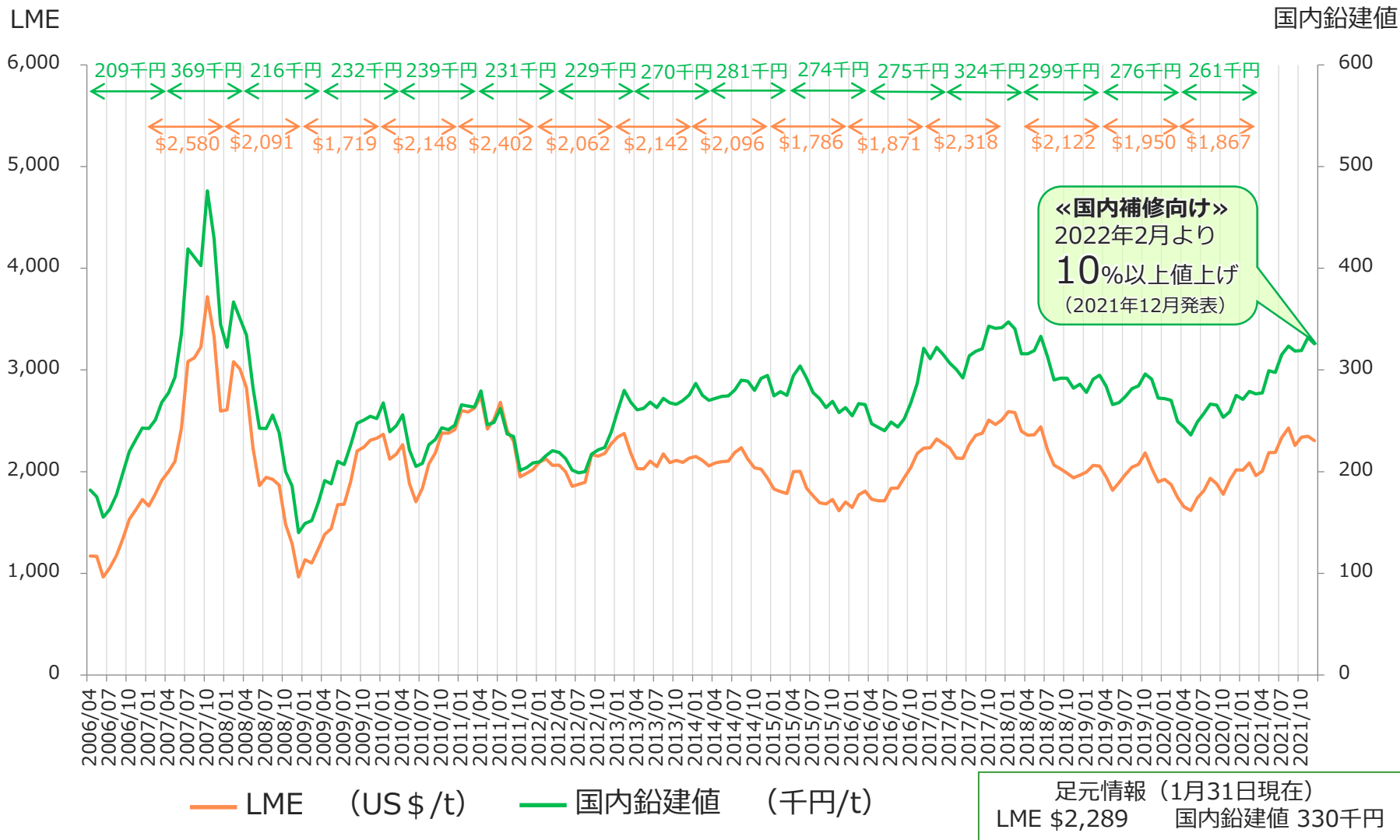


連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
コーポレート室（広報） 青木 裕 ・ 西島 務 ・ 田中 祥太
Tel : 075-312-1214
<https://www.gs-yuasa.com/jp>

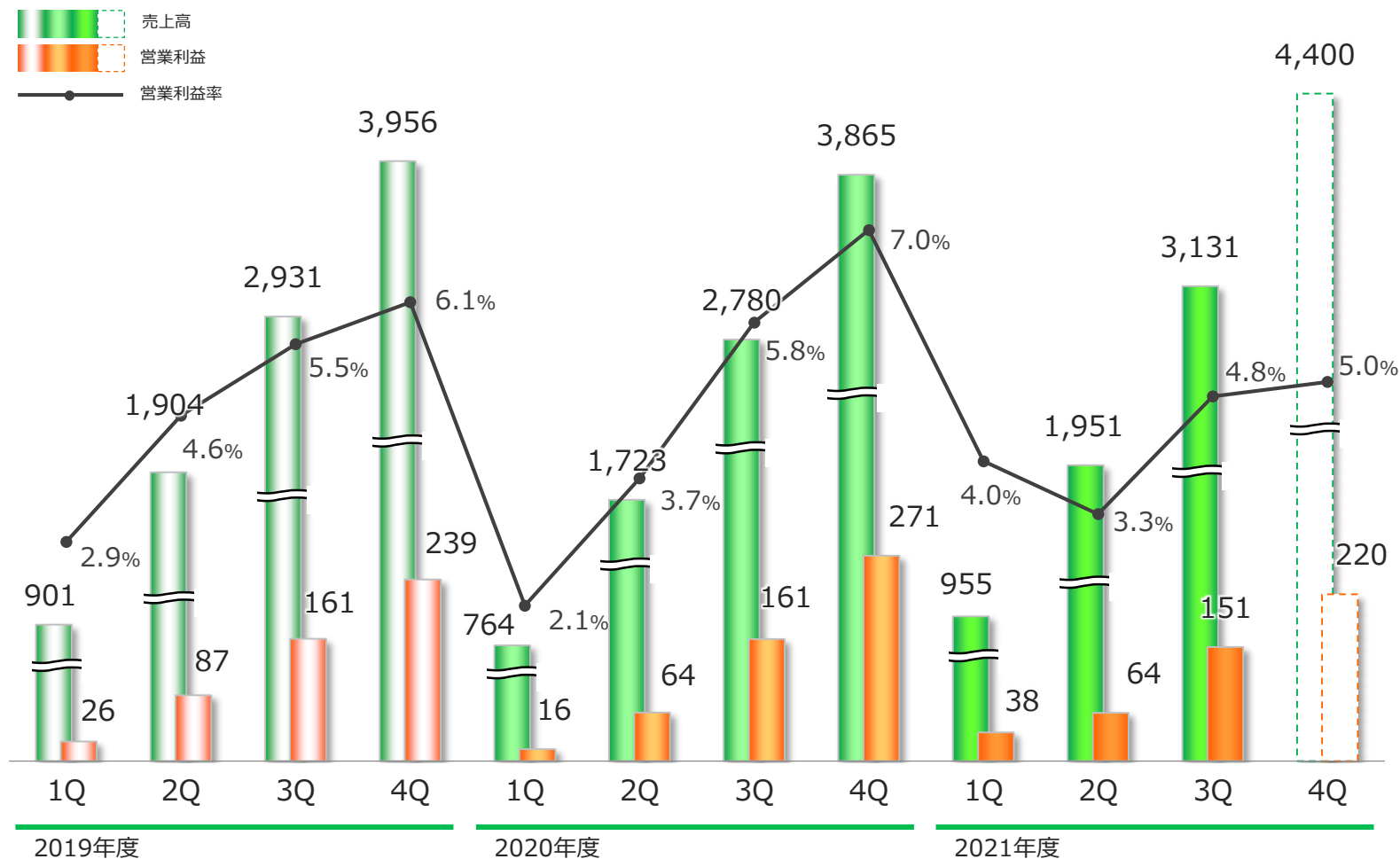
參考資料

原材料価格の推移



売上高・営業利益・利益率推移

(億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。